

「マッハ車検 GR Supra GT4 EVO」 予選 11 位から 9 位で完走



「マッハ車検 GR Supra GT4」は、9月28～29日に鈴鹿サーキット(三重県)で開催されたENEOS スーパー耐久シリーズ 2024 第5戦「SUZUKA S 耐 5 時間レース」に参加。激戦区の ST-Z クラス 13 台中 9 位で完走を果たした。

福岡に本拠を置く Team Noah(代表:清瀧雄二)は、“九州に元気を！九州のモータースポーツにもっとワクワクを！”を合言葉に九州のレーシングチームとして 2018 年より S 耐に参加を開始。2021～22 年はホンダ・シビック TCR で ST-TCR クラスチャンピオンを獲得した。昨年は車両を GR Supra GT4 EVO にスイッチし、敢えて激戦区クラスである ST-Z クラスへクラス替えをして多くのデータを収集した。今季は GR Supra GT4 EVO の新車を投入。新たなスポンサーを迎え、車名、カーナンバーも変更し、金丸ユウをエースドライバーとした。今回も前戦に続き ST-Z クラスのレース経験もある下垣和也、今季の GT ワールドチャレンジアジア鈴鹿戦第 9 戦で総合優勝した金丸、大分出身の森田真心(こころ)、ST-3 クラスで鍛えた富田自然(あるが)の計 4 名でレースに臨んだ。

今回の鈴鹿 5 時間レースに出走した車両は、8 クラス 56 台。ST-Z クラスは、GR スープラ、Z、ポルシェ・ケイマン、メルセデス AMG、アウディ R8 と国内外の GT4 マシン 5 車種計 13 台が出走した。蒸し暑い 28 日の午後に行われた公式予選は A、B ドライバー 2 名のベストタイム合算で争い、下垣と金丸のタイム合算の結果、クラス 11 位、総合 19 位となった。

29 日の午前中に 1 時間ほどの降雨がありコースはウェットコンディションに。しかし各車両がコースインする頃には雨も止んだ。コースはまだ濡れておりタイヤ選択が悩ましかったが、スタートドライバーが S 耐経験の浅い森田ということも考慮しレインタイヤを選択した。曇り、気温 24℃の 11 時 50 分、ウォータースクリーンを巻き上げて 5 時間レースがスタートした。

森田は濡れた路面でスリックタイヤがグリップしない中、5 台を抜き去りクラス 7 位総合 14 位へ。さらに次の周でも 1 台をかわした。しかしオープニングラップで後方の車両がピットロード入口でクラッシュしたことから、2 周目に FCY(フルコースイエロー)からセーフティカー(SC)が導入されることになった。SC ランは 5 分間続いたが、予想以上に急速に路面は乾き 3 周目からレインタイヤよりもスリックタイヤの方がラップタイムが上回るようになると、森田は周回ごとに順位を落とし、たまたま 8 周でピットイン。ここでスリックタイヤに交換したが、順位はクラス 10 位総合 33 位まで下がることとなった。

森田はそこからペースを上げて周回ごとに総合順位を上げ 29 周目にはクラス 10 位総合 23 位とし 1 時間 15 分が経過した 30 周でピットイン。ここでジェントルマンドライバーの下垣に交代した。比較的鈴鹿を走り込んでいる下垣は、GT4 車両の挙動に合わせながら大きなミスもなく周回を重ね、ジェントルマンドライバーの義務周回時間 1 時間 15 分を走り終えクラス 10 位総合 20 位の 60 周でピットイン。ここで金丸がコクピットに収まった。

金丸は総合 25 位でコースに戻り徐々に総合順位を上げるも、複数回の走路外走行によるペナルティストップもありクラス順位は 10 位からなかなか上げられない。それでも 90 周目にはクラス 9 位総合 16 位まで順位を挽回し、95 周でピットイン。ピットワークもミスなくアンカーの富田をコースへ送り出した。富田は 2 分 15 秒 625 のベストラップを叩き出しながら周回を重ねるも、ピットロードの速度違反のペナルティを受け、前の車両に追いつくことはできず 117 周でチェッカー。クラス 9 位総合 15 位ながら、しっかり 4 戦連続で完走した。

次の第 6 戦は 10 月 26～27 日に岡山国際サーキットにおいて 2 グループ区分の 3 時間レースとして開催される。

下垣和也「大変なレースでした。鈴鹿のレース村出身で走り慣れているコースなのですが、このスープラに慣れていないというか、もうちょっとうまく乗ってコントロールできないとダメですね。次は富士で乗りますが、乗るたびに慣れて来てはいるので、頑張ってます」

金丸ユウ「なかなかセットが決まらず今週はありとあらゆることをやって来ましたが、時間が足りない状態でした。今回もスープラ勢は他のチームも含め苦戦していました。走り込むことで得られる引き出しがもっとあれば良いのですが、毎回手探り状態です」

森田真心「序盤 FCY が出るまではウェットタイヤで速く走れたのですが、台数も多くコースが乾くのが早く、無線のやり取りもうまくできずロスした時間も大きかったです。今回もタイムには全く満足はしていません。岡山は初めてではありませんが、速く走れるよう頑張ります」

富田自然「珍しくニュータイヤで走らせてもらったのですが乗りやすくて感動しました。ただ周回を重ねていくうちにセッティングの甘さが分かったので、しっかりチームにフィードバックして今後に活かしていきたいです。もっとデータを集めてクルマを仕上げていきます」